

特定非営利活動法人

埼玉県絶滅危惧植物種調査団ニュース



ミスミソウ *Hepatica nobilis* var. *japonica*

も く じ

＜分類研修報告＞	P. 2-3
活 動 レ ポ ー ト	
総会報告	P. 4-5
第1回観察会	P. 5
第2回観察会	P. 6
第3回観察会	P. 7
あとがき	P. 8

第8号 2015年3月31日

埼玉県内のトリカブト属の分布について

三上忠仁・矢島民夫・田中実

1. はじめに

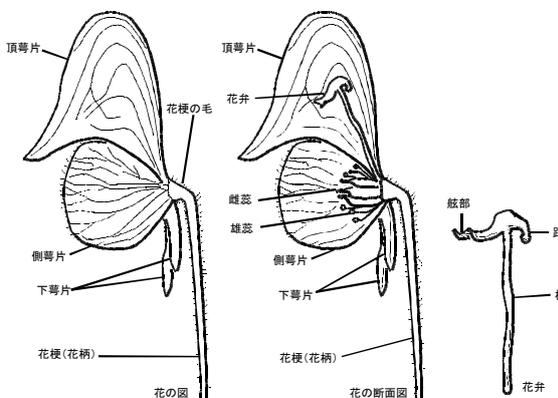
国立科学博物館つくば研究施設において2014年12月20日に、門田裕一名誉研究員が「2014年度自然史セミナー 日本で分化した植物たち(1)キンポウゲ科トリカブト属」について講演された。その講演会のまとめを報告するとともに、埼玉県のトリカブト属の植物における分類上の注意点を報告する。

トリカブト属はレイジンソウ亜属(Subgenus *Lycoctonum*)：多年草、タングーティカ亜属(Subgenus *Tangutica*)：多年草、トリカブト亜属(Subgenus *Aconitum*)：擬似一年草、ジムナコニツム亜属(Subgenus *Gymnaconitum*)：一年草の4亜属に分かれている。日本国内にはレイジンソウ亜属とトリカブト亜属の2亜属あり、埼玉県にもこの2亜属が分布している。

2. トリカブト属における分類形質

- ①花梗（花柄）の毛の有無
- ②花梗（花柄）の毛は屈毛か開出毛か
- ③花期に根生葉の有無
- ④花序の中での花の向き(上向き or 下向き)
- ⑤葉の切れ込み：三中裂・三深裂・三全裂
- ⑥上がく片（かぶと）や花弁の形態

※門田氏は花柄ではなく花梗を用いている。



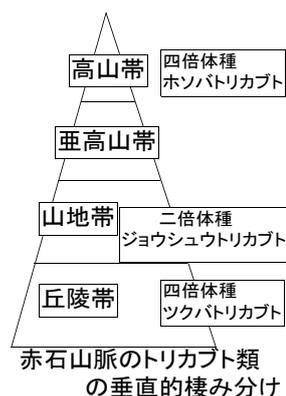
3. トリカブト亜属 擬似一年草 2n=16または32 有毒または無毒

トリカブトの垂直的棲み分けに関しては、赤石山脈の例では、高山帯に四倍体種のホソバトリカブトが分布し、亜高山帯を飛ばして、山地帯に二倍体種のサンヨウブシが分布、丘陵帯に四倍体種のツクバトリカブトが分布している。

埼玉県を対比して考えると高山帯が抜けるが亜高山帯の石灰岩地に4倍体種のホソバトリカブトが分布し、山地帯に2倍体種のサンヨウブシ（トウカイブシの名前は使わない方がよい）が分布する。丘陵帯の四倍体種のツクバトリカブトは県内に生育しているかまだ確認がなされていない。これについてはさらに調査が必要であろう。

二倍体種のトリカブト類は右図のような分布になっている。

埼玉県にはサンヨウブシが分布する。群馬県側にはむかごをつけるジョウシュウトリカブトが生育する。ノリクラトリカブトはイイデトリカブトとサンヨウブシとの交雑種と思われる。二倍体トリカブト類は雑種ができにくく、四倍体種は雑種がゲノムの関係で



できやすいといわれている。

山地～丘陵域に生育する四倍体種のヤマトリカブト類の分布については右図のような報告がなされている。



ヤマトリカブト（広義）はオクトリカブト、ツクバトリカブト（イヤリトリカブトを含む）、ヤマトリカブト（亜種；狭義）、イブキトリカブト、タンナトリカブトに分けられる。

ツクバトリカブトについて、太平洋岸と長野にあるのは別種と思われるが、形態的には今のところ区別ができない。

またトリカブト類の花序については、日陰では垂れ、草原では立ち花序も密になるという特徴がある。群馬県のカイト山などには石灰岩から垂れ下がるミョウギトリカブトがあり、これは3種の雑種と考えられる。

4. 埼玉県内のトリカブト属の分布のまとめ

レイジンソウ亜属に関しては、レイジンソウそのものは四国・九州のみに分布するとのことで、秩父山系を中心に紫花系で花梗や頂萼片に開出毛のあるレイジンソウはフジレイジンソウ（屈毛が混じるレイジンソウとアズマレイジンソウの雑種と考えられる）と呼ばれている雑種である。それに花梗や頂萼片に曲毛のあるアズマレイジンソウ、黄花系のオオレイジンソウの分布が報告されている。

トリカブト亜属に関しては、亜高山帯には主に石灰岩地に生育するホソバトリカブトとキタザワブシ（十文字峠～赤沢岳で確認されている）がある。また、両種の雑種が甲武信小屋や十文字小屋周辺などに見ることができる。ホソバトリカブトとキタザワブシの区別点は、ホソバトリカブトが花柄の毛が開出して花卉の距長 8.4–11.0mm に対し、キタザワブシは花柄の毛が曲がり花卉の距長 12.0–16.3mm である。

山地帯には、花梗に毛のないサンヨウブシやカワチブシ、伏し毛のあるヤマトリカブト（狭義）が分布する。二子山の石灰岩地にはヤマトリカブト（狭義）・センノウヅモドキ（多分サンチュウトリカブト）・カワチブシの3種の雑種（岸壁に垂れ下がる）が生育する。これは群馬県側に生育するミョウギトリカブトとは葉が草質で光沢がない点で違っている。

外秩父の山地帯や西部の山地帯から丘陵帯にかけて成育するものはヤマトリカブト（狭義）である。また大宮台地や宝珠花台地にはツクバトリカブトが分布する可能性があり、調査していく必要がある。

参考資料

- ・門田裕一 国立科学博物館名誉研究員「2014 年度自然史セミナー日本で分化した植物たち (1)キンポウゲ科トリカブト属」 つくば研究施設：2014年12月20日
- ・NPO 法人 埼玉県絶滅危惧植物種調査団(2014)フィールドで使える図説植物検索ハンドブック【埼玉 2824 種類】 さきたま出版会

活 動 レ ポ ー ト

【総 会】

日 時：平成 26 年 6 月 1 日（日）10:00～12:00

場 所：さいたま市浦和区北浦和 カルタスホール会議室

出席者数：会員 49 名中 42 名（内書面による出席 15 名）

当日は、平成 25 年度事業報告、決算報告、**新役員の選任**、平成 26 年度事業計画、予算案などが審議されました。

（講演会）「“宝蔵寺沼ムジナモ自生地”とムジナモの生育」と題して埼玉大学教育学部金子康子教授より講演がありました。

総会に先立ち理事会が開催されました。

日 時：平成 26 年 6 月 1 日（日）

場 所：さいたま市浦和区北浦和 カルタスホール会議室

出席者数：理事 11 名中 10 名（内書面による出席 1 名）

平成 25 年度事業報告、決算報告、**次期新役員の選出手順**、平成 26 年度事業計画、予算案などが審議されました。

【調査委員会議兼調査員会議】

日 時：平成 25 年 6 月 1 日（日）13:30～15:00

場 所：さいたま市浦和区北浦和 カルタスホール会議室

出席者数：会員 37 名

- 1 平成 25 年度希少野生動植物種選定調査(植物)報告書
- 2 平成 25 年度会計報告、平成 26 年度予算案
- 3 平成 26 年度に行うべき業務の打ち合わせを行う。

調査する希少野生植物種の種類と調査報告書の記入について説明がありました。

【新役員】 NPO 法人埼玉県絶滅危惧植物種調査団 新役員

任期 2014.07.01～2016.06.30

組 織

顧問	邑田 仁				
代表理事	牧野彰吾				
副代表理事	矢島民夫	永戸 健	米林 仲	田中 實	
理事	尾形一法	金子康子	木口博史	木村和喜夫	杉田 勝
	山下 裕				
監事	篠葉利夫	森廣信子			
事務局長	田中 實*				
事務局次長	木村和喜夫*				
調査委員	尾形一法*	金子康子*	木口博史*	木村和喜夫*	篠葉利夫*
	杉田 勝*	田中 實*	永戸 健*	牧野彰吾*	森廣信子*
	矢島民夫*	山下 裕*	米林 仲*		

調査員（維管束）	五十嵐勇治	石川香保里	石川好夫	石渡孝行	市川栄一
	岩田豊太郎	植田雅浩	大河内哲二	太田和夫	大塚一紀
	岡田典子	尾形一法*	小澤正幸	金子修史	金子康子
	菅野治虫	木口博史*	北田義明	木村和喜夫*	木山加奈子
	篠葉利夫*	篠原正明	渋谷園実	杉田 勝*	須田大樹
	平 誠	高橋重男	田中湊子	田中 實*	手塚映男
	寺尾好夫	長須房次郎	能見三郎	原 由泰	福嶋正男
	古橋 汪	戸来吏絵	堀切史郎	牧野彰吾*	三上忠仁*
	森廣信子*	矢島民夫*	山下 裕*	山村良輔	米林 伸*

(蘚苔類) 木口博史*

(藻 類) 中村 武 原口和夫

(地衣類) 吉田考造

(菌 類) 福島隆一

(植物群落) 大須賀宣行 島井誠司 渋谷園実* 須田大樹* 戸来吏絵*
永戸 健*

運営委員	石川香保里*	大塚一紀*	尾形一法*	菅野治虫*	木口博史*
	木村和喜夫*	島井誠司*	杉田 勝*	平 誠*	田中 實*
	原 由泰*	戸来吏絵*	牧野彰吾*	三上忠仁*	森廣信子*
	矢島民夫*	山下 裕*			

(各項、副代表理事を除きアイウエオ順 * は再掲)

【第1回 春の公開講座】

日 時：平成26年5月18日（日）9:30～15:00

場 所：寄居町金尾地区と長瀨町風布地区

参加人数：15名（指導者：高橋重男・矢島民夫理事） 天気：晴れ

活動内容：波久礼駅から金尾山の植物観察

5月18日、雲一つ無い快晴の朝矢島さんを混えて12名の参加が秩父鉄道波久礼駅に集まった。

最初の観察地は荒川の対岸、ヤマツツジの大群落で有名な金尾山である。そこには昭和天皇お手植えのヒノキがあり、昨秋皇太子ご夫妻が来られたので、見学用の道路など整備が万全で歩きやすい環境となっている。

頂上の展望台に登る途中にミヤマザクラが植えられていて、一風変わった花序や葉の特徴などを説明する。既に花の散ったヤマツツジ群落の林床には、ノアザミやコウゾリナの花が咲き、ニガナ、キジムシロ、ナルコユリ、ミヤマナルコユリ、マムシグサの花も見える。シオデ、ノハラアザミ、オカトラノオ、アキカラマツの株も多数混生している。展望台から眺めていると秩父鉄道のSLが黒煙を吐きながらやって来た。頂上近くにはアカメガシワ、ヌルデ、コナラ、ニシキギ、ツクバネ、ミツバアケビなどが生えている。



次の観察地はヒイラギソウ(写真)の自生地である。県内で知られている生育地は標高 1000m



前後の冷涼な地域が多い。長瀬町風布の自生地は荒川の支流に注ぐ小さな沢の縁で、ヒノキ林の下のゆるやかな斜面地で、ここは最も低い生育地と思われる。これはこの小さな流れに沿って、山の斜面を冷たい空気が下ってきているのかもしれない。縄文時代以前の寒冷期の名残だと思う。

ノブキ、ムラサキケマン、ラショウモンカズラ、ミズナ、クワガタソウ、ホウチャクソウ、ヨゴレネコノメ、アブラチャン、ヒメウツギなどを見乍ら進む。

ヒイラギソウは開花中の一株を含めて 10 株程で、唇形の濃青色の花を見るのは私も初めてで、参加者の皆さんもこの好機を大変喜んでいました。

その後、釜伏峠に移動昼食をとり、午後は県内唯一のムギランの自生地天狗岩に向かったが、急峻な蛇紋岩の岩壁に阻まれ近くに行くことはできなかった。(文責：高橋)

【第 2 回 秋の公開講座】

日 時：平成 26 年 11 月 17 日 (月) 9:30~14:00

場 所：寄居町金尾地区

参加者：15 名 (指導者：高橋重男・矢島民夫理事) 天気：晴れ

活動内容：寄居町波久礼橋から金尾山の植物観察会

天気予報では暫らく前から「曇りのち雨」になっていたので心配していたが、11 月 17 日の当日は鰯雲が天高く広がるまざるの天候となった。

秩父鉄道波久礼駅に矢島さんをお迎えし、荒川に架る寄居橋を渡る。ダムの両岸はケヤキ、コナラ、クヌギ、エノキ、イチヨウなどの大木が水面に覆いかぶさり、赤や樺色更に黄色などと様々な紅葉が湖面に映えて、見事な景観を呈している。金尾地区に入って直ぐの東屋にはすでに 10 数名の参加者が待っていて挨拶を交わした。



私達はこれから通称「つつじ山」へ、昔金尾氏の居城であった要害山へ登るわけである。東屋を出発したのち秩父盆地に入る旧道を歩き、やがて段丘斜面の中程を民家の屋根を下に見乍ら荒川に沿って進む。斜面の路の上にはカタハダアズマネザサの群落が続き、クサギの低木やカラムシの混生する藪からアケビ、センニンソウ、ヤマノイモ、カニクサなどが垂れ下がっている。草地の斜面には

エゾノギンギシ、チガヤ、クサノオウの根生葉が見られた。

やがて急坂を登ると大きなオギ群落となり、やや上にはススキの株もある。水辺を好むオギが向陽の休耕地にあるのが不思議な気がする」と云うと、矢島さんから“道路工事に伴う客土の可能性はある”との解説があった。ここでオギとススキの果穂の区別を説明し、道路を超えて金尾山伝蔵院の庭に入り休憩となる。この寺には昔植えたキハダと云う胃腸に利く民間薬のとれる大木があった。しかし残念乍ら伐採されてしまっていた。休憩後はいよいよ“つつじ山”に向かって登るわけである。（文責：高橋）

【第3回 野外観察会】

日時：平成27年3月15日（土）

場所：清瀬市「中里緑地保全地域」

参加者：27名（指導者：山下 裕理事） 天気：薄曇り

活動内容：空堀沢・柳瀬川沿いの斜面林と林床の植物観察 参加者：27名

長期予報だと、雨のち曇りなので、やや天気が心配でした。しかし、当日は薄曇りで、

ときおり日も差してよい方変わりました。西武線秋津駅より徒歩で明治薬科大学をめざしました。大学と空堀沢を挟んで、対岸が中里緑地保全地域です。観察会はここからスタートしました。ここは西北西向き斜面で、全体に緩やかな起伏があり、景観として素晴らしいところです。カタクリをはじめタチツボスミレ、ジロボウエンゴサク、セントウソウ、ニリンソウなどの葉を



観察することができました。花をつけているのは、アオイスミレとヒロハノアマナ、特にヒロハノアマナ(写真)の群落は圧巻です。花を咲かせたばかりの個体は新鮮な感じがしま

した。飯能市や入間市でもこんなに多くの個体を見たことがありません。

ここを通過し、次に金山緑地公園の方に、植物を観察しながら移動しました。ここは水路がつくられていて、夏は蛍を見ることができそうです。空堀沢が柳瀬川に合流するところから川幅が広くなり、小魚が多くなります。ここではカワセミをバードウォッチングしながら対岸のエノキに寄生しているヤドリ



リキを観察しました。

最後に崖線緑地まで行き、斜面林を見ました。高木はクヌギを中心とした林で、他にヤマザクラ、イヌシデ、コナラ、アカシデなどです。林床にはカタクリ、ヒロハノアマナ以外はハナウドやキツネノカミソリ、ジロボウエンゴサク、ヤマエンゴサク、セントウソウの葉などが目立ちました。

この場所は、季節が変化するごとに林床の植物群落が変わります。早春のカタクリ、ヒロハノアマナ群落から春のタチツボスミレ、初夏はハナウドの群落、秋はキツネのカミソリ（ヒガンバナもあります）。季節ごと植物群落の移り変わりが面白く感じられます。

（文責：山下 裕）

【あ と が き】

昨年度末には念願の「フィールドで使える **図説植物検索ハンドブック**」を出版することができました。しかし、本当に本屋さんや並んで一般の人々がお金を払って買っただけなのか多少の不安がありました。心配は杞憂だったようでNPOの持ち分はすぐに配布済みとなり、書店分も売れているようです。さらに、本年は会報になる「さいたま植物通信41号」を発行することができました。

「さいたま植物通信」は故愛川先生が編集担当した40号（2009年）を最後に休刊されており、毎年発行を考え予算は計上していましたが執行することができませんでした。ここに41号を発行することができましたが、当面は年2回の予定です、長く続くようみなさんの寄稿をお待ちしています。

<表紙の写真>

ミスミソウは古くから武甲山に生育記録が残っている。旧版植物誌にも秩父郡（武甲山）より記録があり、自然の博物館には3点の標本（四分一1960、岩田1966）が残っているが、いずれも武甲山のものである。しかし高度経済成長に伴い武甲山の石灰岩採掘が急激に進み、自生地も立ち入りができなくなった。このため1998年版植物誌の調査では、生育の確認ができなかった。その後、2005年に立ち入り可能な生育地の情報があり、2006年調査が行われ確認されたため、現在まで継続的な調査が行われている。

埼玉県絶滅危惧植物種調査団ニュース NO.8

2015年3月31日発行

編集・発行 NPO法人 埼玉県絶滅危惧植物種調査団

発行責任者 矢島民夫

事務局 〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 1-3-16

TEL 049-241-5857

発行所 〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 1-3-16

TEL 049-241-5857